

Heimat

ハイマート

ぐんま日独協会 会報 61号

2023年2月13日

発行者 鈴木 克彬

発行所 ぐんま日独協会

〒371-0105

群馬県前橋市富士見町石井 2445-219

電話:027-288-4297

E-mail: info@jdg-gunma.jp

ホームページ:jdg-gunma.jp/



1. 会長のことば	2
2. 事務局より	3
3. 沼田市と姉妹都市交流フュッセン市について	5
4. マンガ「ケンペル江戸参府旅行」解説	8
5. 「ドイツ語ニュースを聞く会」って?	12
6. 日本百名山 独訳 - 連載 10	17
7. デザイナー修行奮闘記 - 連載 19	21
8. 大使館絵画展報告	24
9. お知らせあれこれ 書籍のご紹介	25

1. 会長のことば

ドイツも日本と同じ貿易立国

ぐんま日独協会 会長 鈴木克彬

今般ウクライナ戦争を契機に、ロシアからヨーロッパ各国への天然ガスの供給がストップされ、ドイツを初めヨーロッパ各国は大変なエネルギー危機に直面している、と言われています。そのためドイツ政府は、急遽世界各国からエネルギー調達を図るとともに、国内的には石炭発電の復活、原子力発電の稼働期間の延長等の対応を進めています。この処置に対し、緑の党や SPD もやむを得ない、という姿勢で、何とか工場・家庭への電力ストップ危機は免れた、という報道が流されています。



またドイツのシュルツ首相は2022年11月4日、中国を訪問し、習近平主席に「中国はロシアのプーチン首相にウクライナ戦争を止めるよう影響力を行使して欲しい、と要請した」と新聞で報道されました。シュルツ首相の行動力はすごいな、と感心した次第です。

しかし更に別の新聞詳細報道によると、その際ドイツの大企業約10社のトップが同行した、との記事を見て、ドイツの商魂の逞しさと共に、ドイツも輸出に依存している国だ、ということを知りました。一方中国もまたドイツの製品や技術供与等を必要としている国、という現実の姿を改めて感じました。

以前、東京での日独のセミナーに出席した時、「メルケル首相は中国には再三訪問するが、何故日本には見えないのか・・・」と会場から質問があった事を思い出しました。今考えると、ドイツ側から見ると、日本と中国の人口比較・輸出市場のスケールの違いによるものであった、と思い知りました。

日本もドイツと同じく、資源がなく、輸出入に頼る貿易立国です。それでも日独両国が発展しているのは、勤勉性、技術開発力、誠実さ等で世界の信頼を受けているからだと思います。

日独協会の設立の趣旨・目的は、相互交流・相互学習・相互向上を是とした両国の発展目標の結果だと思っています。お互いの長所・持ち味を理解し、楽しく、学びながら、一人ひとりの人生を高めて行きましょう。



【表紙の写真:「プレッツェルの車でかぞくりよう」 共愛学園小学校1年 深澤 星乃香さん】

2. 事務局より

訃 報

ぐんま日独協会副会長 島田卓爾様

島田卓爾様は去る令和4年11月18日に逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表すと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。島田様は長年にわたり、ぐんま日独協会の副会長として会長を補佐し、会の活動を支えて下さいました。子持村（現渋川市）村長を4期16年にわたりお勤めになり、社会福祉法人子持山学園（児童福祉施設）理事長を勤められ、「いと小さきものに愛を」をモットーに地域の社会福祉のために大きな貢献をなされました。



ぐんま日独協会副会長 對馬良一様

對馬良一様は去る令和5年1月12日に心不全のため逝去されました。謹んで哀悼の意を表すと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。對馬様はぐんま日独協会の創立時以来の会員で、ぐんま日独協会副会長として会長を補佐し、会の運営の中枢を長きにわたり担って下さいました。



對馬様のお人柄は誠実・温厚で誰に対しても優しい笑顔で接して下さいました。またユーモアに富み、手品を楽しみ、イベントでは先頭に立って出演し、私たちを導いて下さいました。ドイツ大使館や日独協会とも太いパイプを持ち、最後まで日独交流に尽力されました。

ドイツ大使館からぐんま日独協会に届いた對馬様の追悼文を次ページに掲載いたします。

「第9回ドイツフェスティバル」実行委員会立ち上げについての報告

去る1月16日付の一斉メールで発信しました通り、今秋10月最終週末（未決定）にドイツフェスティバルの開催を考えています。

1月25日メ切で実行委員会の委員を募集した結果、会長を始め約10名の方々がその募集に応じてくれました。メ切は過ぎましたが、まだ間に合いますのでやっても良い人がおいででしたら奮ってご参加下さい。お待ちしております。

諸般の準備を整え、第1回の実行委員会を2月の中旬頃開催しようと考えております。

現在、執行理事会で検討は始めておりますが、実行委員会が発足しました段階で具体的な検討は実行委員会が担当することになります。（H）



Botschaft
der Bundesrepublik Deutschland
Tokyo

4-5-10 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-0047

Herrn Katsuaki Suzuki
Präsident der Japanisch-Deutschen Gesellschaft
Gunma
2445-219 Fujimimachi Ishii, Maebashi,
Gunma 371-0105

Dr. Klaus Vietze
Chargé d'Affaires a.i.

Tokyo, 19. Januar 2023

Sehr geehrter Herr Suzuki

Der Verlust eines geschätzten Menschen ist nicht zu ersetzen und auch nicht mit Worten mildern.

Herr Tsushima war uns bekannt als ein tief überzeugter Freund Deutschlands, was sich nicht nur in seiner Vorliebe für die deutsche Kultur äußerte. Mit unermüdlichen Engagement setzte er sich bis ins hohe Alter auch für die Vertiefung der deutsch-japanischen Beziehungen ein, zunächst als Mitglied sowie später als Vizepräsident der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Gunma, deren Wirken er maßgeblich mitgestaltete. Seine Überzeugung und sein Fleiß trugen nachhaltig zum gegenseitigen Verständnis der Menschen unserer beiden Länder bei und so werden wir ihn in Erinnerung behalten. Wir an der Botschaft schätzten dabei seine erfahrene Unterstützung sehr, insbesondere bei der Durchführung unseres alljährlichen Malwettbewerbs „Watashi no Doitsu“, den Kinder aus Gunma auch auf seine Initiative hin stets mit zahlreichen wunderbaren Bildern bereicherten.

Wir trauern mit Ihnen gemeinsam um einen wertvollen Menschen.

Bitte richten Sie auch seiner Familie unsere Anteilnahme aus.

In aufrichtiger Verbundenheit

〒371-0105
群馬県前橋市
富士見町石井2445-219

ぐんま日独協会 会長
鈴木 克彬 様

ぐんま日独協会副会長、對馬良一様のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。

敬愛してやまない人物を喪われたお悲しみは、なにを以ってしても、また、どのような言葉でも癒すことができないことと拝察いたします。

對馬氏はドイツ文化に対する造詣が深いだけではなく、ドイツを熱愛する親独家として知られておりました。また、ぐんま日独協会の会員として、そして、後には副会長というお立場から、ご高齢になられてもなお、日独関係の深化に熱心にご尽力され、ぐんま日独協会のご活動に惜しみなく寄与されました。

對馬氏がゆるぎない信念と勤勉さをもって、日独両国の人びとの相互理解に絶え間なく貢献されたお姿を、私たちは忘れることはないでしょう。とりわけ、ドイツ大使館主催の絵画コンテスト「わたしのドイツ」におきましては、群馬の子どもたちが對馬氏の呼びかけに応じ、毎年、素晴らしい絵でコンテストを盛り上げてくださったことに、ドイツ大使館の職員一同、心から感謝申し上げます。

ご遺族のみなさまのお悲しみはいかばかりかと拝察いたします。

謹んでお悔やみを申し上げますとともに、對馬氏のご冥福を心よりご祈念申し上げます。

駐日ドイツ連邦共和国臨時代理大使
クラウス・フィーツェ

3. 沼田市と姉妹都市交流フュッセン市について

沼田市役所秘書課 中村 萌

前回のフュッセン市オンライン体験ツアーに続き、今回は沼田市とフュッセン市の交流がいつ、なぜ始まったのかについて書かせていただきたいと思います。

フュッセン市とは

フュッセン市はドイツ南部のバイエルン州にあり、その最南西部に位置しています。3本の足の絵が描かれたマークは市の紋章でアウグスブルグ・ケンプテン・イタリアへの3つの街道を表しています。また、フュッセン市の名前の由来がゲルマン語で「足や麓（ふもと）」を意味していることからこの紋章となったのではと推測されます。

ドイツの人気観光スポットであるノイシュバンシュタイン城へは約10分というアクセスの良さで、旧市街地はカラフルな建物が建ち並び、まるでおとぎ話に出てきそうな可愛い街並みを散策できます。ロマンチック街道とアルペン街道の交差点となるフュッセン市に1泊してゆっくり観光を楽しむ人が多いことから、フュッセン市は観光業が盛んとなっています。



フュッセン市の紋章

沼田市とフュッセン市の比較

	沼田市	フュッセン市
位置	群馬県の北部	バイエルン州の最南西部
総面積	443.46 km ²	43.52 km ²
人口	45,676 人 (令和4年4月末現在)	約 15,699 人 (2018年9月30日現在)
観光	吹割の滝、玉原高原、老神温泉	フュッセン市立博物館

交流の始まり

沼田市は1995年にドイツ・フュッセン市と姉妹都市提携を結びました。そのきっかけとなったのが、「ロマンチック街道」です。

ドイツのロマンチック街道は1950年に設定され、南ドイツをヴュルツブルクからフュッセンへ縦断する全長362 km の観光街道です。中世の面影を残す町並みやアルプスの大自然の中に佇む古城や教会が点在しています。これをモデルとして、日本ロマンチック街道ができました。日本において最もドイツ的景観を持つ街道として、長野県上田市から沼田市を経て栃木県日光市を結ぶ全長約320 km の街道です。

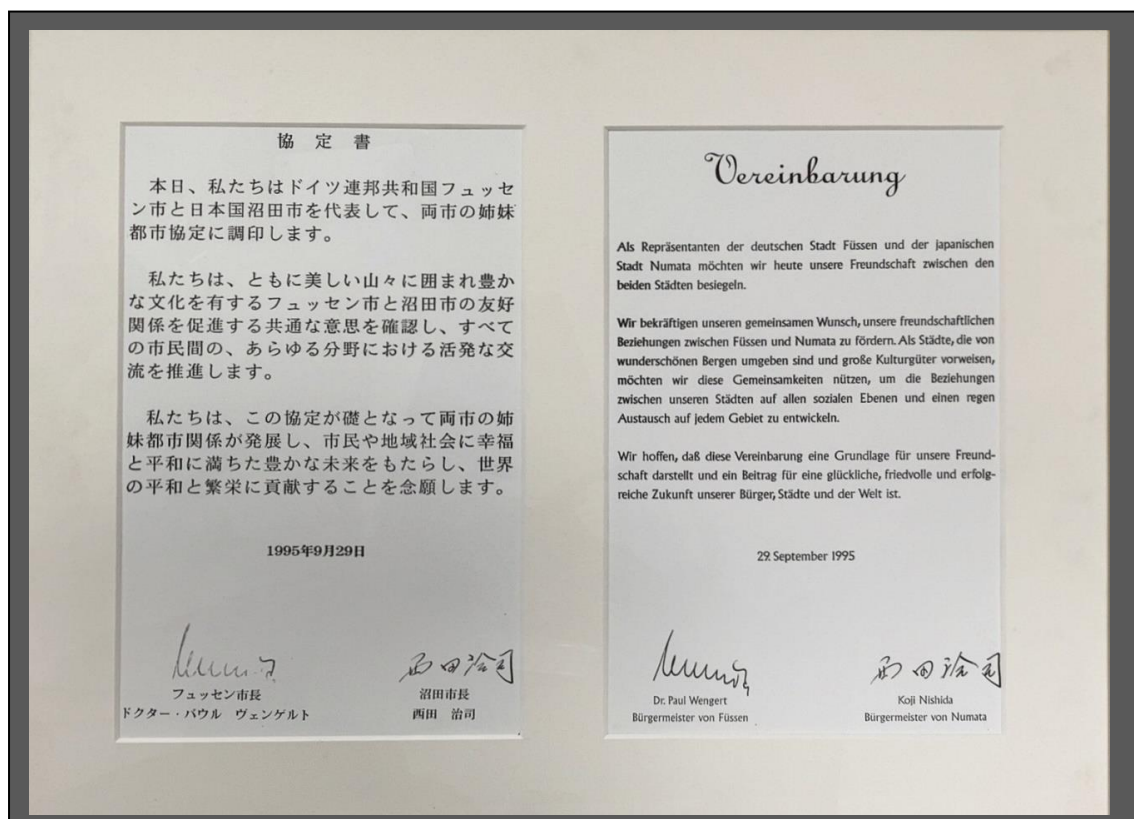
1998年に日本ロマンチック街道協会とドイツロマンチック街道協会は姉妹街道の締結をしました。その後、フュッセン市の吹奏楽団が日本ロマンチック街道の市町村で演奏活動を行うため沼田市を訪れた際に沼田市を気に入って、姉妹都市提携の話が一気に具体化していったということです。



国際姉妹都市提携の覚書の調印式
(セイントマング修道院にて)
1995年8月2日



握手するフュッセン市パウル・
ヴェンゲルト市長と沼田市
西田治司市長(元ぐんま日独協
会副会長)



国際姉妹都市提携の覚書（実物はテラス沼田4階秘書課前に展示してあります）

主な姉妹都市交流事業

- ・沼田市内の小・中学生が作成した絵画を毎年フュッセン市に送付
※姉妹都市提携の平成7年～
- ・沼田市内の中・高校生とフュッセン市学生とのEメール交流
※平成29年度～令和元年度
- ・5年ごとの周年事業として首長等による相互訪問

近年では、新型コロナウイルス感染症の関係で、互いに行き来するような交流が難しくなっています。そのような中でも、グリーティングカードやプレゼントを送り合ったり、周年記念の覚書を交わしたりと、欠かさず交流が続いたことで改めてフュッセン市との友情を感じました。近い将来お目にかかることを楽しみにしています。

...／

4. マンガ「ケンペル江戸参府旅行」解説

大熊富吉 会員

日独 Manga コンクール作品「ケンペル江戸参府旅行」について



日独交流150周年の頃だったと思うが、ぐんま日独の会合で、ある本が紹介された。本のタイトルは「ケンペルの見たトクガワジャパン」だった。この時はケンペルについての知識はなかったが、これはおもしろそうだと思いすぐに購入した。

読み進めるうちに、ケンペルのことがだんだんわかってきた。ケンペルはドイツ人で医学の勉強をし、ひょんなことでオランダ東インド会社に就職し、オランダ商館の長とともに日本にやってきた。彼の仕事は医師であるが、時間があるときは日本の文化・政治・経済その他多方面にわたり資料を収集し記録した。彼が本当にやりたかったのは、新天地で研究することだった。そうした意味で、彼は医師というよりは研究者であった。

ケンペルは歴史的な大偉業を成し遂げたが、ケンペル一人の力でやったのではない。助手やその他の人たちの協力がなかったら実現しなかっただろう。厳しい幕府の掟の中でどうやって情報を得たのか、協力者に迷惑をかけなかったのかなど疑問が出てくる。特に四六時中ケンペルの世話をしている助手はなくてはならない存在だったろう。雇用にあたっては契約書を交わしているが、禁制の項目の大部分が当てはまってしまう。常識的に考えた時、禁制通りにしていたら助手の仕事は不可能である。ケンペルの日記の中には助手の名前は全く出てこない。この点は理解できる。だが、半年もたたないでオランダ語をマスターし、翻訳までできるのだろうか。また、ケンペルの印についても気になる。どんな意味なのか、いったい誰が作ったのかなど、謎がいっぱいある。ケンペル自身に聞いてみたいものだ。

ケンペルが日本で見た衝撃は300年を経た現在でも強烈に伝わってくる。ケンペルの書いた日記はまさに映画でも見ているようだ。こんなわけですっかりケンペルのとりこになり、日独 Manga コンクール作品に本題材を取り上げることにした。

ケンペルの生い立ち

ケンペルは1651年北ドイツのレムゴーで生まれる。彼の父親はプロテスタントの牧師であった。ケンペルの子ども時代には魔女裁判が行われており、レムゴー市はドイツにおいて魔女狩りの中心地のひとつであった。牧師である父親は魔女裁判の犠牲者の告白を聞く役割を果たしており、魔女裁判を正しいことと信じていた。また、30年戦争後の混乱期に生まれたケンペルにとって、故郷は安全なところではなかったのである。

しかし、ケンペルは裕福な家庭で育ったため、高校・大学と恵まれた学生生活を行うことができた。歴史学・地理学・哲学・古典文学を学び、大学はトルンやクラカウで勉強した。クラカウからワルシャワ、トルン、ダンチヒを経てケーニヒスベルクで大学の医学部に入学した。

ウプサラ遊学

強国スエーデン国王の「ドイツ人でも有能な人物は王国の高い地位につける」という言葉があったのでスエーデンに移る。この時ケンペルは29歳、1680年であった。ケーニヒスベルクでは医学の博士号をとっていなかった。スエーデンではまずウプサラに遊学した。

使節団の秘書として就職

研究者オフロ・ルートベックと知り合いになり、そのコネクションを使って、スエーデン王がロシアとペルシャに派遣する使節団の秘書として就職した。モスクワではイワンとピョートル〈後のピョートル大帝〉との謁見を行っている。使節団は1684年3月から翌年11月までの1年半以上ペルシャの首都イスファーンにとどまった。ケンペルはこの期間にペルシャすなわち現在のイランの自然環境と文化について詳しく研究した。彼は見聞きしたことを想像して書き留めることよりも、羅針盤による測量とスケッチによってできるだけ実物に近い形で記録しようと努力し、それに客観的な説明を加えていた。

重大な決断

使節団と一緒にスエーデンに帰るか、オランダ東インド会社の役員として旅を続けるか決めなければならなかった。彼は旅を続けることを選んだ。理由は次のことが考えらる。王国にコネクションを持ち合わせていなかったこと、秘書以外に就職の経験がなかったこと、博士号を持っていなかったこと、当時のドイツはトルコやフランスと戦争をしていたことなどがあげられる。また、アジアに興味を持っていて、特に伝説的なインドが見たかったようである。だから、前に進むしか道がなかったのである。

災難

ケンペルは、南ペルシャのバンダール・アッバースに2年以上（1685-1688）とどまった。

ここでは病気にかかり死にかけた。北部の山中で静養しながら、ヤシの実の調査を行った。インドに向けて旅をするが、興味を持っていたインドの内部を見る機会がなく、海岸都市しか寄ることができなかった。1689年の秋に東インド貿易、アジア貿易の本拠地であるバタビア（ジャカルタ）に向けて出航した。ケンペル38歳であった。彼はバタビアで病院の仕事をする許可を求めたが、許可は下りなかった。ちょうどこの時に毎年交代していた長崎・出島のオランダ商館付きのポストがあいたのでそれに応募したところ採用された。1690年5月バタビアを出航、アユタヤでオランダ人は1か月間商業活動を行った。7月に日本に向かう。この時大勢いの船員が病気にかった。その上、台風のため船が沈みかけたが、なんとか長崎に着いた。1690年9月22日だった。

今村源右衛門

ケンペルの助手として1690年から1692年の2年間にわたり大事な役割を果たした人物である。彼の語学力は抜群でちょっと半年教えたぐらいで完全な翻訳ができるようになっていた。

彼の助けがなかったらケンペルの偉業は達せられなかったであろう。ケンペルの記述の中ではこの助手の名はどこにも出てこない。長い間この人物が誰であったのかわからなかったのである。それが近

年になって発見された。大英博物館のブラウン女史が助手の契約書みたいなもの「請状の事」を1枚見つけ、展覧会（平成2年～平成3年）で展示できるようになった。この中には「今村源右衛門と契約する」と書かれている。この人物は後に英生という号を使っている。新井白石の通訳としてシドッチに対する尋問に立ち会っている。

通詞について

オランダ人との折衝にはオランダ通詞が当たった。彼らは今日でいえば通訳と税官吏を兼ねた役人である。オランダとの交渉に入って間もない時期であり、まだポルトガル語が主流の時代であった。通詞一般についてのケンペルの評価は低く、すこぶるお粗末な代物で、辛うじて外国の単語をでたらめにつなぎ合わせ、しかもお国訛りで自己流に発音する能力しかない。通詞と話をするのにもう一人別の通詞をつけなければならないとまで言っている。

江戸参府旅行

オランダ商館の長は毎年一度長崎から江戸に出向かなければならない。若干の随員を伴って将軍に拝謁して貿易許可の礼を述べ、献上品を呈するのが年中行事となっている。参府旅行の際には、身分・官位の異なる一群の日本人に護衛される。これら日本人は長崎奉行の支配下にあり、奉行がその役を任命する。一見敬意を表しているように見えるけれどもこの護衛の裏にある目的は、道中で疑わしい交渉や関係が結ばれないようにすることで、早く言えばスパイや捕虜の場合と同じである。宿泊の宿については大体大名と同格の扱いで、いつも良いところに泊まる。前屋（みすばらしい宿）に対し後屋（高貴な客をもてなす宿）に宿泊する。後屋は全てが新しいように見えるもので1つの部屋に1～2珍しい品（置物）があつたり美しい中庭があつたりするものである。

江戸参府にかかる日数

長崎から小倉までは陸路で5日間、小倉から下関まで小舟で、そして大阪まで大船で合わせて7日から10日、大阪から京都を経て東海道を陸路で15日間だから片道だけで約1か月かかることになる。そして江戸滞在が約20日間となり、帰りが約1か月であるから全行程に要する日数は3か月近くになる。

ケンペルの見た日本人気質

自尊心が強く、殊のほか親切であり、如才なく特に新奇を好む。とくに外国の歴史、制度、芸術、学問などについて何かと見聞きしようとする意欲は格別であると言っている。日本では商人は最も軽視される身分の低い階層にあたり、我々オランダ人はその最も低い階層に他ならない。その上我々は要注意人物と見なされ、常に囲われた一定の区域内に居住している外客なので一挙手一投足に至るまで気を配り、日本人の威厳を傷つけないように、また、自尊心を満足させるようにしなければならない。資料集めや調査をする場合、自尊心の強い人間に取り入り探り取ろうとするなら、彼らの希望に添い、心証をよくするようにしなければならないとした。この方法で上役人や通詞らの信用を得た。具体的な方法として次のようにした。専門の薬物学をもって接し、彼らの希望に従って天文学や数学も教え、無報酬で快く奉仕した。授業については特別の歓待（リキール酒を飲ませるなど）をした。その結果、二人きりの時は極秘の話まで教えてもらった。

君主制と鎖国について

一人の君主の意志によって統御され、海外の全世界との交通を一切断ち切られて完全な閉鎖状態に置かれた現在ほど、国民の幸福がより良く実現している時代を見出すことができないと言っている。インド・バタビアのようにヨーロッパの植民地支配下に入りつつある地域を見てきたケンペルの観点からすると、この日本列島の閉ざされた空間における幸福というものが見いだせる。

護衛

長崎奉行は第一級の士官である与力のうちから一人を選び、参府旅行における一般的な呼ばれ方として奉行（正式には付添検使）という役職が与えられ、最高の指揮官として任務にあたる。護衛の日本人は身分の高低はあってもそれぞれの役があり、日本人同士であっても互いに監視し合い、行動のすべてを報告しなければならない。こうした護衛には通常奉行の家人を用いるが、忠節さにおいて認められた人物が選ばれる。彼らは出発に先立ってすべてを報告することを文書で誓約し血判を押して提出する義務を負う。

拝謁

将軍は商館長に一言も声をかけず、無言の拝謁を与え、商館長は老中の合図に従って直ちに退出する。五代将軍綱吉の時代には、これに続いて大奥でオランダ人全員をご覧になるようになった。ケンペルは表御殿での拝謁は許されなかったが、大奥には同行している。そして、その時の様子をこのように言っている。部屋はどれも十五畳の広さで、その一部に御簾がかかり、その陰に将軍と奥方が座っていた。将軍の質問を老中が取り次ぎ、それを通詞が訳してオランダ人に伝え、オランダ人はまたこの経路で答えた。

堅不留の印

ケンペルの遺産の中の一冊の見返しに「堅不留」という小型の長方形の黒印が記されていた。これはケンペルの蔵書印である。この3文字の解釈として二通り考えられている。それは「強いものにとって動かせないものはなし」あるいは「今村を助手とした秘密を絶対に漏らさない」を意味するらしいが、一体誰がこの文字の組み合わせを作ったのかは謎である。

参考文献: ケンペルのみたトクガワ・ジャパン (ヨーゼフ・クライナー編)

江戸参府旅行日記 (ケンペル 斉藤 信訳)

事務局より: 公財) 日独協会がベルリン独日協会の協力、ドイツ連邦共和国や全国日独協会連合会の後援のもと日独交流 160 周年「日独 Manga コンクール」を 2021 年秋に開催しました。bear さんが参加し入賞されました。マンガ「ケンペル江戸参府旅行」はホームページ「会員ページ」趣味創作活動の会員のマンガにすでに掲載されております。

5. 「ドイツ語ニュースを聞く会」って？

瓜生郷子 会員

どのようなことを題材にしているかについて 10 月開催分からご紹介します。

ドイツ語ニュースを聞く会では 教材として Deutsche Welle の「Langsam gesprochene Nachrichten (ゆっくりしゃべるニュース)」から月の担当者が選んだニュースに和訳をつけて題材にしています。



10 月の回では 2022 年 9 月 1 日にドイツで行われたルフトハンザのパイロットのストライキについて取り扱いました。ニュースは 9 月 1 日、2 日、6 日の 3 本の記事を使用し、その内の 9 月 1 日分と 6 日の一部をここでご紹介します。

■Piloten der Lufthansa wollen streiken (1.09.2022)

Lufthansa-Kunden müssen sich wieder auf einen Streik einstellen. Die Gewerkschaft "Vereinigung Cockpit" kündigte für Freitag einen ganztägigen Arbeitskampf der Piloten an. Bestreikt werden sollen sämtliche Abflüge der Lufthansa und der Lufthansa Cargo aus Deutschland. Die Verhandlungen mit der Fluggesellschaft über einen neuen Tarifvertrag seien gescheitert, erklärte die Gewerkschaft. Sie verlangt Gehaltssteigerungen von fünfeinhalb Prozent im laufenden Jahr und einen automatisierten Inflationsausgleich ab dem kommenden Jahr.

和訳 “ルフトハンザのパイロットはストライキを望んでいる”

ルフトハンザの顧客は再びストライキに備えなければなりません。組合「コックピットグループ」は、金曜日にパイロットの終日労働争議を予告しました。ドイツから出発するすべてのルフトハンザとルフトハンザ・カーゴの出発便はストライキする、ということである。組合は、新しい労働協約についての航空会社との交渉は失敗したと述べた。それは、今年の 5.5 パーセントの昇給と、来年からの自動的なインフレへの保証を要求している。



■Auch Spitzenverdiener sollen mehr bekommen (6.09.2022)

Die VC fordert rückwirkend ab 1. Juli 5,5 Prozent mehr Geld für die Piloten. Im Januar soll eine weitere Anhebung angesichts der stark gestiegenen Inflation um 8,2 Prozent folgen, wie aus Gerichtsunterlagen hervorging. Die Piloten wollen auch eine höhere Bezahlung bei Krankheit, Urlaub und Schulungen durchsetzen. Die Lufthansa veröffentlichte in Reaktion auf den Streik die Liste von 16 Forderungen der VC. Die Personalkosten im Cockpit würden damit um 40 Prozent oder rund 900 Millionen Euro über die nächsten zwei Jahre steigen, erklärte die Airline. Die Lufthansa bezifferte ihr Angebot bei 18 Monaten Laufzeit auf 900 Euro mehr Grundvergütung pro Monat. Die Einstiegsgehälter stiegen dabei um mehr als 18 Prozent, die oberste Gehaltsgruppe bekäme

fünf Prozent mehr. Die Spanne der Pilotengehälter reicht derzeit von 69.000 Euro im Jahr für den Nachwuchs bis zu 275.000 Euro Spitzengehalt. Erst im Juli hatte die Gewerkschaft Verdi mit einem Warnstreik des Bodenpersonals den Flugbetrieb der größten deutschen Airline für einen ganzen Tag nahezu lahmgelegt. Die Flugbegleiter-Gewerkschaft Ufo will im Herbst für ihre Mitglieder verhandeln. Sie erklärte sich "ausdrücklich und uneingeschränkt solidarisch" mit dem Streik der Piloten.

和訳 “トップの稼ぎ手でも もっと稼ぐべき”

VC (パイロット組合) は、7 月 1 日からさかのぼってパイロットのために 5.5%の増額を要求している。裁判所の文書によると、インフレ率の急激な上昇を考慮して、1 月にはさらに 8.2%の上昇が見込まれている。また、パイロットは病気、休暇、トレーニングのためのより高い賃金を主張している。ストライキを受けて、ルフトハンザは VC からの 16 項目の要求リストを公開した。したがって、コックピットの人件費は今後 2 年間で 40%、つまり約 9 億ユーロ増加すると航空会社は説明している。ルフトハンザはその申し出で 18 ヶ月間の有効期限内で月額基本報酬が 900 ユーロ引き上がると見積もった。初任給は 18%以上上昇し、上位の給与グループは 5%増加する。現在、パイロットの給与範囲は、新人の年間 69,000 ユーロ (977 万円) から最高給与の 275,000 ユーロ (3,893 万円) までの範囲である。はじめ 7 月にヴェルディ労組が地上スタッフによる警告ストライキにより、ドイツ最大の航空会社の運航を丸一日ほとんど麻痺させた。客室乗務員の組合 Ufo は、秋に仲間のために交渉するだろう。それは、パイロットのストライキとともに「明確な、そして無条件の連帯」と説明している。

この後に、翻訳をする際に使った単語と文法の情報を少し説明、次に新聞などの関係資料を参考に内容を深め、ディスカッションをしました。この回で参考資料として使った一部を以下に紹介します。

■資料: ABEMA Times から『50 年で 5000 件→35 件に激減した日本のストライキ』を要約したものです。

『労働組合にとって最も基本的な闘い方』

全国労働組合総連合 (全労連) 副議長、三木陵一氏によると、ストライキ権は戦後、日本国憲法ができた時に労働者の基本的な権利として盛り込まれた。世界ではピラミッドの建設時にもストライキが行われたという記録があるらしいし、日本においても 1886 年、山梨の雨宮製糸工場で女工さんと呼ばれていた女性労働者がお寺に立てこもったのが最初のストライキだといわれている。“労働者からの要求”と聞くと賃金など経済的なものばかりだと思われがちだが、“いい仕事をしたい”と切実な思いからのものでもある。

『連合は“闘わない労働組合”だ』

半日以上にわたって行われた国内のストライキは、1974 年の時点で 5000 件以上もあったが、2020 年には 35 件と、私たちが目にする機会は圧倒的に減っている。1974 年にピークを迎えた理由は、この年にオイルショックがあったからだ。今も物価がめっちゃくちゃ上がっているが、60~70 年代当時は欧米に劣らず全国組織の労働組合があり、労働者はストライキによって大幅な賃上げを求めて活発に戦っていたということだ。転機を迎えるのが 1989 年だ。この年、闘う労働組合である『総評』と、いわゆる“会社派”、“御用組合”の集まりである『同盟』がくっついて日本最大の労働団体である『連合』が生ま

れた。しかし、連合は全くストライキをしない。それどころか春闘の賃上げ交渉で会社から回答が出てくると、即座に“分かりました”と妥結し、闘いをやめてしまう。他方、排除されていった闘う労働組合の人たちが立ち上げたのが、『全労連』だ。

『“不健全だけど穏やか”という日本の象徴』

慶應義塾大学の若新雄純特任准教授は「労働者を活かす環境が削られ、日本の会社は弱くなっている。欧米化しきれず、“不健全だけど穏やか”という、日本のムラ社会、企業のあり方の象徴だと思う」と喝破する。「日本が近代化していく中で欧米から取り入れた考え方だと思うが、やっぱり日本が昔ながらのコミュニティである“ムラ”に戻ったということじゃないか。正論を吐く人に他の人が一致団結して何かを変えようとするよりも、それによって居心地が悪くなるくらいなら、みんな仲良く廃れていこうというのがムラの発想だ。例えば労働環境の悪化や不正によって企業が潰れてしまうかもしれないが、突撃すれば改善されるかもしれない。それでも問題を大きくして会社を分裂させるくらいなら、“仕方ないよね”で倒産したり、訴えられたりする道を選ぶことが多いのではないか。

『日本の労働者はもっと闘うべきだ』

日本在住のアメリカ人は「僕は日本の国民が穏やかな社会を保ってきたのはすごいと思う一方、やっぱり不健全だと思うところはある」とコメント。経営者と争わず、仲良くして働く。しかしそのせいでデフレが長く続いていると思うし、格差社会にも拍車がかかっていると思う。アメリカでは今もストライキ文化があるし、週 40 時間の制限など、労働者の権利が作られていったのも労働組合の努力の成果だと思う。日本の労働者も、もっと闘うべきだと思う。ただ、アメリカでは労働組合が強すぎるとか、ストライキを起こしすぎという問題も最近では指摘されている。三木氏は「同じ船に乗って闘うよりも、乗り移って離れた方がいいという選択肢もあるかもしれないが、実際に乗り移れるのは 10 人いれば 1 人か 2 人で、残りの 8 人は沈みゆく船に置いてきぼりにされる状況にある。この 20 年間、連合がまったくストライキをやらなくなった中で、日本の賃金は先進国のなかでも非常に低く、お隣の韓国よりも低いくらいだ」と話していた。

「ドイツ語ニュースを聞く会」へ参加して

私は「ドイツ語ニュースを聞く会」への参加を通して、ドイツ、ヨーロッパ、そして対比として日本社会がどうなっているかをたくさん学んでいます。ディスカッションをするなかで参加するみなさんの多面的な考え方や情報を聞くこともとても楽しいです。また DW のドイツ語と和訳の資料は事前にぐんま日独協会のホームページに掲載されるので、自分のペースでドイツ語の勉強も出来、当日にわからないところを質問することも可能なのでとても勉強になります。

この企画は 2018 年 02 月 17 日から始まり、現在は月一回金曜日 19:30 からオンラインで開催しております。この 2018 年から取り扱ったドイツ語のニュースと和訳は、ホームページの会員ページ内にアーカイブしてあり、資料としてドイツの過去のニュースにも触れることができますのでご覧ください。

...／

「ドイツ語ニュースを聞く会」でこれまでに取り上げたニュース一覧

2022 年

- 12月:DW 2022年12月3日「ウクライナ、初めてスペインから対空ミサイルの供与を受けた」他
- 11月:ドイツ映画での勉強会。教材:「ソウル・キッチン (Soul Kitchen) 2009年」
- 10月:DW2022年9月2日「ルフトハンザノパイロットが仕事を放棄した」他
- 9月:DW2022年7月8日「安倍氏撃たれる」、7月14日「ウクライナより穀物輸出合意」、他
- 7月:DW2022年6月27日「エルマウサミット二日目」
- 6月:DW2022年5月26日「グリーンピースによれば天然ガスは大幅節減可能」
- 5月:DW-Top Thema2022年4月29日「寝ながら旅へ:夜行列車が戻ってくる」
- 4月:DW2022年2月14日「Baerbock 曰く Ukraine 危機は「絶対的にきな臭い状況にある」
- 3月:DW2022年3月8日「ロシアに対する文化に関するボイコット」
- 2月:DW2022年2月4日「ロシアのドイチュヴェレ放送禁止への激しい批判」他
- 1月:DW2021年12月31日「ドイツで進む脱原発」

2021年

- 12月:DW2021年7月14日および11月21日「国連気候変動会議」
- 11月:DW2021年10月5日および10月7日「連立政権協議」
- 10月:DW2021年9月11日「シュタインマイヤー大統領 移民に対して復興への貢献に感謝」
- 9月:DW2021年7月26日・28日、8月9日「IPCC 国連での気候危機議論」
- 8月:DW2021年7月15・17日「嵐の後、エッフェルで約30人の行方不明者」
- 7月:DW2021年6月8日「ドイツ環境省がドイツのための国家水戦略を発表」
- 6月:DW2021年4月20日「ゼーダーとの権力闘争におけるラシェットの成功」
- 5月:DW2021年3月29日「スエズ運河で航行不能の船 Ever Given 号再び航行可能に」
- 4月:DW2021年2月24日「マース外相が最優先の環境保全対策を求める」
- 3月:DW2021年2月19日「アメリカの火星探査車が火星に着陸成功」他
- 2月:DW2021年1月16日「CDU 初のデジタル党大会始まる」
- 1月:DW2020年9月9日「ヒョコ殺処分廃止を目指す」

2020 年

12月:DW11月27日「トランプ氏ホワイトハウスからの撤退をほのめかす」

11月:DW10月3日「ドイツ再統一30周年」

10月:DW 8月19日「ドイツの森の懸念」

9月:DW 8月19日「ライブツィヒ 決勝に進めず」

8月:DW7月21日「コロナパッケージで歴史的合意」

7月:DW6月24日「食肉加工工場でコロナ集団発生」

6月:DW5月27日「コロナ接触制限延長」

5月:DW4月2日「Brexit」

2月:DW1月20日「オーストラリア森林火災」

1月:DW12月4日「地球温暖化の更なる進行」

2019年

11月:DW10月28日「チューリンゲン州議会選挙」

10月:DW8月20日「Brexit 再交渉要求」

8月:DW7月19日「気候環境政策」

7月:DW5月31日「メルケル首相ハーバード大学でスピーチ」

5月:DW5月14日「モンサントに慰謝料支払い命令」

4月:DW12月31日「メルケル首相年頭挨拶」

2月:DW1月19日「メキシコで爆発、死者多数」

1月:DW12月13日「英国メイ首相不信任投票に耐える」

2018年

11月:DW10月15日「バイエルン州議会選挙」

10月:DW9月10日「ケムニッツの証言」

7月:DW6月7日「在独トルコ人の投票」

5月:DW4月7日「ベルリンシェーネフェルト空港改築」

4月:DW3月14日「メルケル4選」

2月:DW1月19日「オルカーン襲来」

(DW:Deutsche Welle)

...／

6. 日本百名山 独訳 - 連載 10

深田勝弥 会員

47 鹿島槍岳 (2890 米) 47 *Kashima-yari-dake* (2890 Meter)

47-01

昼の雲
舟のさまして
動かざる
鹿島槍てふ
藍の山かな

Tagsüber schweben
die Wolke in der Ruhe
mit der Form wie Schiff,
liegt der indigoblaue Berg
namens *Kashima-yari*.



これは三好達治君の歌である。この詩人はずっと以前志賀高原の発哺に滞在していたことがあって、その時の作である。発哺温泉から眺める北アルプスの大観はすばらしい。眼路の果てに、妍を競うように高岳雄峰が立ち並んでいる。その見事なパノラマの中で、鹿島槍岳の美しい形が三好君の眼を引いたに違いない。

Das ist das Tanka von *Miyoshi Tatsuji*. Als der Dichter sich vor langer in *Hoppo* auf der Hochebene *Shiga* aufhielt, schrieb er dieses Werk. Es ist schön, der Ausblick auf die nördlichen Alpen von der Therme *Hoppo*. Am Ende das Augen reicht, stehen die Berge sich in der Reihe. Die schöne *Kashima-yari* in dem Panorama muss *Miyoshi* ins Auge gefallen sein.

47-02

鹿島槍は私の大好きな山である。高い所に立って北アルプスの連嶺が見えてくると、私の眼の探すのは、双耳峰を持ったこの山である。北槍と南槍の両峰がキッとせり上がっていて、その二つをつなぐ、やや傾いた吊尾根、その品のいい美しさは見倦きることがない。

Kashima-yari ist mein Lieblingsberg. Wenn von einer Höhe zu den nördlichen Alpen geblickt, und die in Sicht bekommt, suche ich immer diesen zwei Spitze des Bergs. Seine zwei nördliche und südliche Spitze stehen mit einer guten Haltung. Der ein wenig schräger Grat, der mit anderem verbunden wird. Diese würdevolle Schönheit lässt mich nicht satt sein.

47-03

一口に美しいと言っても、笠ヶ岳のように端正でもなく、薬師のように雄大でもなく、剣岳のように峻烈でもない。そういう有り合わせの形容の見つからない、非通俗的な美しさである。粹^{いき}という言葉が適当でしょうか。粹でありながら決して軽薄ではない。大ざっぱに山を見る人には見落とされがちな謙遜な存在であるが、一旦その良さがわかると、もう好きで堪らなくなる、そういう魅力を持った美しい姿である。

Ich habe auf das Wort „schön“ gesagt, hat das aber keine solche Schönheit, wie Ordentlichkeit von *Kasagadake* (57), wie Große von *Yakushidake* (50) und wie Steile von *Tsurugidake* (48). Es hat die außergewöhnliche Schönheit, wie das Wort „schick“ zu ihm passen kann. Trotz schick, ist es nie oberflächlich. Der Berg ist so unauffällig, dass man sich ihn beim ersten Anblick leicht versieht. Aber einmal seine Schönheit versteht, vergisst man ihn gar nicht. Er hat derlei Reiz.

47-04

魅力は何といっても両槍とその間の吊尾根の美しさだが、殊にこの山を真横から見るより、斜めか、或は縦に眺めた方が、いくらか冗漫に思われる左右の稜線が縮まって、一層引き締まった美しさになる。

Der Reiz ist schließlich die Schönheit die beiden Spitzen und der beiden verbundenen Grat. Der Grat ist schöner zu sehen, wenn von schräger oder von länger, als von der rechten Seite geblickt, weil der Grat sieht sich dadurch noch gespannt schöner aus.

47-05

この山は信州側から見るのがよく、越中側からでは、例えば立山連峰から眺めては、やや精彩を欠く。魅力的な吊尾根が間延びしてしまう。信州側からはどこから見てもいいが、殊に印象的だったのは、糸魚川街道の湖のほとりを歩いていて、湖水の向うを仕切る前山の上に、二つの槍がスックと頭をもたげているのを見つけた時だった。或は、五竜岳の頂に立って、深い谷を隔てたすぐ真向いに、流れ行く薄雲の合間に隠見する吊尾根を望んだ時だった。ああいう構図は、どんな天才的な画家でも思いつくまい。

Es ist besser von der Seite *Shinshu* zum Berg zu sehen, weil als vom Land *Etchu*, zum Beispiel vom Gebirge *Tateyama* geblickt, wird der attraktive Grat ein wenig breiter und lebhafter. Vom *Shinshu*, irgendwohin geblickt, ist es schön. Vor allem als ich von der Straße *Itoigawa* zu den beiden Spitzen auf dem *Maeyama* überm See sah, und dazu als ich auch von Gipfel des Berges *Goryu* (46) gerade zum Grat gegenüber in den ziehend dünnen Wolken übers tiefen Tal blickte, hat diese Anblicke den starken Eindruck auf mich gemacht. Der geniale Künstler sogar muss auf solche Komposition nicht bekommen.

47-06

鹿島槍岳という名前は明治以後で、山麓の鹿島部落の名を採ったものである。この部落は平家の落武者の住んだ所と伝えられ、更にその奥の鹿島北面の岩壁の下にカクネ里という地名さえ残っている。カクネ里はカクレ里の転訛であろうか。

Der Name *Kashimayari* ist in der Meiji Zeit (1868 - 1912) nach dem Name Dörfchen *Kashima* auf dem Fuß. Man sagte, dass früher hatte die fliehende Heike Familie hier gewohnt, und noch hinter der Felsenwand im Norden sogar der Name *Kakunesato* übrigblieb. Der Name *Kakune-sato* mag sich aus „*Kakure-sato*“ (verstecken) verwandelt wird.

47-07

しかしそれ以前、ずっと古くからこの秀れた山には名前があった。信州側では、背比べ、或いは鶴ヶ岳と称したという。背比べは双耳峰から来たものであり、鶴ヶ峰は残雪の模様に因んだものである。越中側では、後立山^{ごりゅうさん}という称呼があった。越中の古文獻に後立山という名があり、その山がどれを指すものかいろいろ論議があったが、結局は今の鹿島槍がそれであることが確かになった。

Aber zuvor hatte der gute Berg andere Namen. Man soll in *Shinshuh* „*Sei-kurabe*“ (miteinander die Größe vergleichen) oder „*Turuga-dake*“ genannt haben. *Sei-kurabe* war genannt nach den zwei Spitzen und *Tsuruga-dake* war nach der Form von Kranich des übrigen Schnees am Bergabhang. Auch im Land *Etchuh* war da *Goryu-san*. Da dieser Name *Goryu-san* schon in altem Dokument gestanden hat, gab es verschiedene Meinungen. Endlich hat es doch festgesetzt, dass der Name heutigen *Kashima-yariga-dake* zeigt.

47-08

登山者がこの山に注目して登り始めたのは明治末年であって、それ以後次第に多くの人が行くようになり、所謂後立山縦走^{いわゆるおしろたてやま}という言葉が、生じるほどになった。

Es war im Ende der Meiji Zeit, als dieser Berg beachtet wurde, danach hat man viel den Aufstieg angefangen. Erst jetzt gibt es sogar das Wort des „Durchwanderns“ in *Ushiro-tate-yama* vorgekommen.

47-09

鹿島槍の積雪期初登頂は大正十五年（一九二六年）四月、私の山友達の田辺和男、塩川三千勝、石原巖の三君によって成されたことを、彼らの名誉のために書き添えておこう。その後、冬期の登山は次第に盛んになって、近年は正月の休暇に北アルプスで最も賑わう山のひとつとさえなった。ロック・クライミングの舞台としても名高くなって、東面北面の険絶な岩壁がねらわれ、東尾根、天狗尾根なども相次いで登攀され、今や鹿島槍の信州側の岩壁や沢筋や尾根はほとんど極め尽くされ、吉田次郎君の

『鹿島槍研究』というすぐれた1冊の本さえ生まれたほどである。

Ich schreibe über meinen drei Freunden zu ihren Ehre dazu, dass der erste Aufstieg auf *Kashimayari* April 1926 von *Tanabe Kazuo*, *Shiokawa Michikatsu* und *Ishihara Iwao* erfüllt wurde. Danach wurde der Aufstieg im Winter lebhaft. In letzten Jahren Neujahrferien lang ist ein am blühendsten Berg in den nördlichen Alpen. Dazu ist der heute bekannt als Klettereiort. Die Bergsteiger zielen auf die Felsenwände in der östlichen und nördlichen Seite ein, sowohl Klettern auf den östlichen Grat als auch den Grat *Tengu*. Fast alle Felsenwände, Gebirgsbäche und Bergrücken werden attackiert. Daher erschienen sogar das gute Buch „Die Forschung über *Kashimayari*“ von *Yoshida Jiroh*.

47-10

山はその頂を踏むことによって一層親しみを増すものだが、私は昭和9年（一九三四年）の夏小林秀雄君と二人で初めてその頂に立った。それ以来鹿島槍は私の心を虜^{とりこ}にして今日に及んでいる。山が好きで一生山の絵ばかり描いて、六十過ぎて遂に山で亡くなった茨木猪之吉画伯も鹿島槍が好きで、よく青木湖あたりへ写生に出かけられた。私も茨木さんに頼んで鹿島槍を描いてもらったが、その遺作は今も私の部屋を飾っていて、私は仕事の手を休めては、それに見入っている。

Beim Treten auf den Gipfel, macht man sich mehr mit dem Berg vertraut. Ich habe mich am ersten Mal 1935 mit meinem Freund *Kobayashi Hideo* auf dem Gipfel gestellt. Seitdem es bis heute bindet mir das Herz an dem *Kashimayari*. Da ein Kunstmaler *Ibaraki Inokichi* sich für Berg begeistert ist, malte er zeitlebens die Berge, und zeichnete öfters am See Aoki. Aber er war überm sechzig Jahren verstorben. Ich habe ihn um Gemälde von *Kashimayari* geboten. Das Werk ist noch jetzt an meiner Zimmerwand hängend, und es tröstet mich in meiner Müdigkeit der Arbeit.

28. Dez. 2022 (続く)

事務局より：深田勝弥会員は、作家故深田久弥氏の甥という関係から名著「日本百名山」の独訳に挑戦されました。北海道から南下しながら掲載しますが、百座を網羅する時間とスペースがないため一定地域に偏らないように選択しながら進めています。

なお、このたび「日本百名山」の詩歌にまつわる記述を対訳、美しい写真とともに紹介している「山の詩華集」が冬花社から出版されました。「お知らせあれこれ」をご覧ください。

7. デザイナー修行奮闘記 - 連載 19

井上晃良 会員

授業開始とオール教授との出会い

いよいよ授業開始である。フォルツハイム造形大学は、入学試験や手続きが行われた歴史的な建物の本校舎と私の通うトランスポーターションデザイン学科専用の校舎の2つがあり、後者の専用校舎は中心市街地にある本校舎とは異なり町外れに位置する。特に最初の学期では、講義の授業があり、デッサンやマーケティングなど他の学科の学生も受講する授業では、本校舎で受けることも多い。



フォルツハイム造形大学 本校舎

大学での授業は、特に最初の頃は大変であった。本校舎で行われる講義の授業は、授業についてゆくことが難しかったからである。特にこ

のフォルツハイムやシュツットガルトの方言は、標準語を話すブレーメンで語学学校に通った私には理解できないところが多々あり、半分どころか3割ぐらいしか教諭の話す内容を理解できないこともしばしばであった。

デッサンは、美大予備校以来久しぶりの演習である。ただ、経験がある上にモチーフを見ながら鉛筆を使って描く手法は日本となんら変わらないので問題は少なかった。逆に画用紙など画材が決められていた予備校時代と比べ、どのような紙を使っても構わないなど、学生の自由度は高かったように感じた。何よりデッサンを行う教室は、戦前に建てられた歴史的な石造りの校舎内にあるため、天井が高くデッサンをする空間としては優れた環境である。

授業開始後の初めての木曜日、最初の「プロジェクトワーク」授業は、歴史的な建造物の本校舎ではなく、真新しくモダンなトランスポーターション校舎で行われた。この校舎は自動車デザイン専用の設備が整っていて、レンダリングやクレイモデルを制作するスタジオや講義を受ける教室の他、専用工房もある。決して大きい建物ではないが、学生数も少ないので十分な広さが確保されている。しかし、この授業は例外的に履修する学生が20名程度もいた。これは多い方で、トランスポーターションデザイン学科の学生数は1期あたり約4~5名程度であろうか。私はトランスポーターションデザイン（上築課程）の1学期目の学生であるが、8学期制のトランスポーターションデザインの4期向けの授業でもあるため、この授業に限っては人数が増えるのである。また、この時私と同じ学科に同期で入学したクラスメイトのウルリケと知り合った。自動車デザインを中心に行うこの学科にドイツ人女性は珍しい存在であった。彼女とはその後も私の卒業迄良き友人として、私のことをフォローしてくれた恩人でもある。



フォルツハイム造形大学

トランスポーターションデザイン学科校舎外観

さて、授業時間になるとスタジオに担当教授が現れた。彼は、入学試験の面接時に突然英語で私に質問してきたので憶えていた。彼の名はヘルベルト・オール氏。彼は教育者であると同時に建築家であり、プロダクトデザイナーでもある。後に知って驚いたのは、彼はバウハウス思想を受け継いだ戦後の教育機関として知られるウルム造形大学の最後の校長を務めた。彼は当時、1年の半分以上をドイツで過ごし、フォルツハイムで半期教鞭を執っていたが、後の半年は北米シカゴに住み、その大学でも半期学生の指導に当たっていた。

更にイタリアに別荘があり、ドイツにいる時は愛車のフィアット・パンダ・4x4を毎日の足としてダルムシュタットの自宅から通っているという。以前、彼と校外授業に出掛けたというクラスメイトの話では、彼の運転について行くのは並大抵ではなかったそうである。いつもラフなスタイルで現れる小柄で温和な風貌でありながらも、時に眼光鋭い彼の瞳と、クラスメイトから聞く彼の評判では、既に定年近い年齢ではあったが、常に新しいアイデアを模索する柔軟な思考を持ったクリエイターという印象である。残念ながら2012年3月に他界された記事を目にした。今でも世界の工業デザインや建築が1920年代のバウハウス教育から大きく影響を受けているように、私を含めた多くのオール氏に師事したデザイナーが彼のスピリッツを受け継いでいるのである。

スタジオや講義教室には、木目の美しいフローリングの床に彼のデザインした白色のワイヤーチェアや作業テーブルが学生のために並べられ、大きな窓と白い壁と共に居心地の良い明るく広い空間である。これから私達学生は、彼の指導の元にプロジェクトを行う。しかし、私は日本の美大で受けた授業内容とは全く異なるこの教授の授業進行に驚いた。まず、私達は助手からコピーされた手書きのA4用紙を1枚渡された。テーマは小型電気自動車。2人乗りである。モーターやバッテリーなどの必要な機器の寸法が記されている。また、小型の車体を生かし駐車スペースを極力最小限にすべしと説明された。提出物は、レポート、コンセプト、レンダリング、1/5スケールの塗装したクレイモデル。提出日には、プレゼンテーションすることも求められた。

プロジェクトはグループで行うことになっており、多くのドイツ人の中でさほど会話もできない唯一の日本人である私は、何となく一緒になった4名のインダストリアルデザイン学科の学生のグループに入ることになった。オール教授は、一通りの説明が終わるとさっさと自分の部屋に戻ってしまった。あとは好きにやれということらしい。この時私は、少し複雑な気持ちになっていた。理由は、ほっとした部分と心配事の両方があったからである。心配事とは、もちろんコミュニケーションの問題である。グループの中で他の人と上手くやって行けるか？ということや、私の考えを主張できるのか？ということ。ほっとしたのは、授業でのデザインプロセスが日本での大学の授業や会社で経験したこととほぼ同じであったということ。デザインの世界は、「DESIGN」という単語が全世界で共通であるのと同様、その目的やプロセスや哲学も私が日本で学び実践してきたことと同じであったことを体感的に確認できたのは、大きな収穫の1つであった。

入学試験の面接時に教授陣から半年遅らせて入学するように言われた私にとって、コミュニケーションに難があるという現実、充分以上に厳しかった。木・金曜日のプロジェクトワークの授業では、最初の段階からグループの他のメンバーと私の考えに隔たりを感じていた。しかし、それを主張し理解させる術を見いだすことができないばかりか、このままだと彼らのディスカッションにすら立ち入ることの出来ない自分自身が情けない思いであった。当時の私は、ドイツ語で会話する際、相手から聞いたドイツ語を頭の中で日本語訳して日本語で考え、その答えを日本語で出す。それを再びドイツ語訳して返事をしていたのである。そのタイムラグは非常に長くなるのは当然で、会話、特に複数のディスカッション上では理解できない単語も多々あることも加わり、全く彼らの会話について行けないのは明白であった。この状況を打破しないと最初から落ちこぼれてしまう。講義科目は個人の責任で済むが、プロジェクト授業はグループである以上、私の本意でないまま結果が出てしまう。グループのメンバーは、東洋から来た珍しい学生に対して気を遣って中華レストランのランチに誘ってくれたりもしたが、現状は変わらなかった。そこで数日間考えを巡らせた上で結論を出した。次の木曜日、オール教授の研究室の扉を叩き、彼にお願いしたのである。「私は言葉の問題や考え方の違いがあるので、グループから離れ、1人でこの課題に取り組みたい…」

オール教授は私に最初英語で、そしてすぐにドイツ語に直して私の願いに了解の返事をしてくれた。彼は、日本人は英語で会話すると身体で憶えているのであろう。その後も暫くは私を見るとまず英語で話した。彼は英語が話せず、ドイツ語もおぼつかない私の事情を察してくれたのかも知れない。それにしても言うてみるものである。これで私はとても気が楽になった。と同時に、このプロジェクト授業は全て自分の責任で結果を出さなければならなかったのである。私がグループから離れ、1人で課題に取り組み始めると、私同様にグループから離れる学生も出てきたのは、私と同様の考えを持ったクラスメイトもいたのだと、少し嬉しく感じた。グループから離脱した数人の中に私と同期のウルリケもあり、彼女もその後1人で課題に取り組んだのは、作業を進める上でお互い色々と相談出来、信頼出来るクラスメイトとして、その後に繋がるのである。



トランスポートデザイン学科校舎 スタジオ室内

(続く)

(本記事はイカロス出版株式会社発行『鉄道デザイン EX 06』に連載されたものを転載したものです。同社のご好意により転載の許可をいただいています。)

8. 大使館絵画展報告

大使館絵画展担当 岡博子 会員

15回目を迎える今年のテーマは「未来のドイツ」

児童・生徒のみなさんが想像するすてきな「未来のドイツ」が集まりました。

今回の絵画展には全国から484点(小学生の部394点と、中学生の部90点)の応募があったそうです。群馬県からは小学校74点、中学校から14点の応募がありました。



その中から共愛学園小学校1年 深澤 星乃香さんの作品(題名「プレッツェルの車でかぞくりょこう」)が小学校の部の第3位を受賞しました。(ハイマート61号表紙を飾っております。)

11月23日にあった大使公邸での授賞式ではクレームンス・フォン・ゲッツェ大使から直接表彰をしていただきました。



また、11月23日には久しぶりにオープンデーも開かれ、応募作品の一部が大使館のアトリウムに展示されました。展示時間はコロナの影響により短時間でしたが、群馬県から寒い雨の中をたくさんの児童・生徒(14組)がご家族と共に大使館を訪れてくださいました。



ご協力いただきました保護者、学校、その他関係者の皆様に感謝申し上げます。

9. お知らせあれこれ



書籍のご紹介

Informationen

① 伸井太一/鎌田タベア著「笑え! ドイツ民主共和国」(教育評論社 2022.12)

<鎌田タベア プロフィール> 東ベルリン生まれ。フンボルト大学で日本学を専攻、東海大学に1年間留学。公益財団法人日独協会職員など、約10年にわたり日本に滞在。その間 NHK ラジオ「まいにちドイツ語」にも出演。現在はベルリンでフリーランス翻訳者として活躍中。日本滞在中には、ぐんま日独協会のために尽力していただき、大変お世話になりました。

<内容>

本書はドイツ民主共和国、通称東ドイツ(DDR)の「ジョーク大国」である一面を紹介する。タイトルは「笑い」さえもが東ドイツの政治に管理統制されていたことと、笑わなければやってられない」ことを暗示するものである。

第1章「ジョークで知る東ドイツ概観の快感」：東ドイツの概要や歴史トピックを扱う。

第2章「政治ジョーク、あるいは苦情」：ウルブリヒトやホーネッカー（共に共産党第一書記）に関するものが多く、独裁政権を揶揄するジョークである。

第3章「お役人への常套句ジョーク」：シュタージ（秘密警察）、人民警察、人民軍等のもの。

第4章「生活ジョーク」：モノ不足、東ドイツのテレビ、トラバントと交通事情、労働者・農民・科学者を扱ったもの。

第5章「インターナショナル・ジョーク」：ソ連、西ドイツ、日本等のジョーク。

第6章「どす黒く赤いジョーク」：ドロドロの社会主義、明るくない家族計画経済、等。



② 深田勝弥著「山の詞華集」(冬花社 2022.11)

— 深田久弥『日本百名山』から —

<深田勝弥プロフィール> 昭和12年生まれ。石川県出身。(株)電気化学工業勤務、平成11年退職。著書に『かまくらはいく』『榛東悠々』(冬花社)がある。現在は悠々自適の生活の中、ドイツ語の自主研究成果として種々のドイツ語の翻訳を日々の仕事としている。

<内容>

著者の叔父である深田久弥『日本百名山』（新潮社、1964初版発行）から日本全国の百名山31座を抜粋し、日本語に加えてドイツ語訳を紹介している。ドイツ語訳は著者自身が担当している。はしがきにある著者の言葉「山に関心のある方はその文学について楽しんでいただき、またドイツ語を齧られた方は詩行の音節のリズムを楽しんでいただければありがたいです。」

<一部を引用「浅間山」>

“昔は古い街道が山裾を通っていた。北から北国街道が、西から中仙道が、山麓の高台へ上がってきて、追分の宿で一本になる。今の軽井沢はまだ荒涼とした不毛の高原だった。そして旅人の眼を打つのは浅間山であった。ある歌人は、

信濃なる浅間の嶽に立つ煙をちこち人の見やはとがめぬ
とよんだ。俳人芭蕉は

吹き飛ばす石も浅間の野分かな
と詠じた。”

“*Asama-yama*

Früher führten zwei Straßen, von Norden *Hokkoku-Kaido* und von Westen *Nakasendoh* auf die Anhöhe des Fußes, und einigen sich an *Oiwake* (Scheidenweg) bei der Unterkunft. Diese Gegend *Karuizawa* war damals ein wüstes Hochland. Und was die Reisenden große Augen machen läßt, war der Berg *Asama*. Ein Dichter schrieb forgendermaßen.

Der Rauch aus dem Gipfel
Asama im *Shinano*
steigt zum Himmel auf.
Von fern und nahe geblickt,
wundert man sich darüber.

Unbekannter

Und von *Haiku* Dichter *Bashoh*,

Auf dem *Asama*
bläst der Taifun so wild fort,
sogar die Kiesel.”



※現在、『日本百名山』からの抜粋とドイツ語訳は、会報「ハイマート」で連載中です。

(H)

**** ホームページ ****

<https://www.jdg-gunma.jp/>

ぐんま日独協会のホームページでは、ドイツサロン、ドイツ語ニュースを聞く会など
今後のスケジュールを確認したり、ドイツフェスティバルのパネル展示をはじめ
ドイツサロンなど会の活動の記録、ハイマートのバックナンバーなどを閲覧できます。
どうぞご活用ください。



**** Facebook ****

<https://www.facebook.com/JDGGunma>

ぐんま日独協会の Facebook では、
協会的话题に加えてドイツ大使館や日独ユースネットワークなどが
発信するコンテンツも掲載されています。



**** Instagram ****

<https://www.instagram.com/JDGGunma/?ref=badge>

ぐんま日独協会の Instagram ご存じですか？
協会の活動やドイツに関する情報など、新たな情報発信ツールとして、
アップしていきたいと思ひます。



編集後記

今号の表紙は、ドイツ大使館主催の絵画展の受賞作品「プレッツェルの車で家族旅行」です(p.24)の文章をご覧ください)。プレッツェルが車になる！そして中ではお風呂に入ったりベッドで休んだり！硬くなった私の頭と心では思ひもよらない自由な発想と、優しさあふれるあたたかい色使いの作品に、思わず「なんて素敵！」と声をあげていました。新型コロナ感染が世界を覆って2年以上が、そしてまさか21世紀にこんなことがと耳を疑う戦争のニュースが流れるようになってから1年が経ち、心が晴れ晴れとしない日々ですが、その中にぱっと光が差して、心が暖まる幸せな気持ちになりました。みなさまにもその気分をお分けします。今号もお楽しみいただければ幸いです。(M)